
第4章

世界遺産へのあゆみ

平成7年度まで



愛護少年団による清掃活動



大久保石見守墓所

- ・石見銀山遺跡として国史跡に指定
6つの間歩（大久保・本・龍源寺・新横相・釜屋・新切）、天正在銘宝篋印塔基壇、安原備中墓、大久保石見守墓所、佐毘売山神社、代官所跡、伝安原備中霊所、山吹城跡が指定されました。鉱山遺跡としては初の国史跡指定でした。

昭和50年 ・銀山公園整備事業開始



現在の銀山公園



龍源寺間歩



住民を交えての放水訓練



石見銀山資料館

- 昭和51年 ・石見銀山資料館開館
明治35年に建てられた邇摩郡役所をそのまま利用して、地元有志が開設した民営の資料館です。
- 昭和58年 ・石見銀山遺跡総合整備計画の策定
・発掘調査、文献調査の開始
代官所跡・蔵泉寺口番所跡の発掘調査が行われ、この調査以降、遺跡の価値を解明するための調査が継続的に実施されました。
- 昭和62年 ・大森地区・銀山地区が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定
- 平成元年 ・龍源寺間歩を一般公開
- 平成4年 ・**日本が世界遺産条約加盟**

平成7(1995)年度

- 11月 ・澄田知事「世界遺産の登録をめざして検討を進めていきたい」と表明

平成8(1996)年度

- 4月 ・石見銀山遺跡発掘調査委員会設置
田中 琢奈良国立文化財研究所長ら7名の委員が任命され、第1回委員会が6月に開催されました。
- 9月 ・国際記念物遺跡会議（ICOMOS）のヘンリー・クリア氏が視察
併せて世界文化遺産講演会も開催され、ヘンリー・クリア氏と田中 琢氏が講演しました。
- ・島根県・大田市共同の石銀地区調査開始



発掘調査委員会による視察

平成9(1997)年度

- 4月 ・石見銀山遺跡総合調査開始
調査の成果は現地説明会などで公表されていきました。



宮ノ前地区の説明会



文献調査団による調査の様子

- 6月 ・石見銀山遺跡整備推進本部を設置
県の教育長、各部次長、川本総務事務所長、市町の助役で組織されました。

平成10(1998)年度

- 3月 ・石見銀山遺跡総合調査報告書作成
主に平成5年～平成10年度にかけて行われた調査の成果をまとめた報告書として刊行されました。

平成12(2000)年度

- 11月 ・国の文化財保護審議会の特別委員会で石見銀山遺跡の世界遺産暫定リスト登載について審議・答申



石見銀山遺跡総合調査報告書
6分冊からなっています

平成13(2001)年度



- 4月 ・ 県の文化財課内に世界遺産登録推進室を設置
- ・ 大田市に石見銀山課を設置
- 県・市とも石見銀山遺跡の世界遺産登録に向けた体制が整えられました。

・石見銀山遺跡が世界遺産暫定リストに登載

- 6月 ・ 史跡石見銀山遺跡及び周辺整備基本計画策定
- 7月 ・ 「石見銀山遺跡ニュース」創刊号発行

石見銀山遺跡の世界遺産登録に向けたさまざまな動き・研究の総合的な情報発信がスタート。



石見銀山遺跡ニュース第1号(創刊号)

- 7月 ・ シンポジウム「世界遺産候補、石見銀山遺跡」開催(松江市)

～石見銀山遺跡のすばらしさを語る～をテーマに、TBS系「世界ふしぎ発見」でもおなじみの竹内海南江さんの講演もありました。

・石見銀山世界遺産をめざす会発足

- 8月 ・ シンポジウム「世界遺産候補、石見銀山遺跡」開催(大田市)

～石見銀山遺跡をどう活かすか～をテーマに、女優の星野知子さんの講演もありました。

- 10月 ・ 銀の道ウォーク開催

・熊谷家住宅保存活用検討委員会(第1回)開催

京都女子大学教授の小泉和子氏ほか7名の委員で構成され、以降9回にわたって熊谷家の活用策について検討が進められました。



シンポジウムの報告書



熊谷家住宅の家財調査



銀の道ウォークの様子



熊谷家修理前の状況



- 11月 ・ 熊谷家住宅保存修理工事開始

- 12月 ・ 石見銀山体験シンポジウム



公開講座の様子

3月 ・ 国史跡に追加指定

銀山柵内・石見城跡・矢滝城跡・矢管城跡・鞆ヶ浦・沖泊が史跡に追加指定されました。

・ 石見銀山遺跡保存管理計画策定委員会（第1回）開催

保存管理計画の策定に向け、12名の委員で構成。以後12回の委員会が開催されました。

・ 石見銀山遺跡調査ノート刊行

石見銀山遺跡総合調査の概要に加え、関連する事業の概要、資料紹介等で構成され、基礎的な情報を知る上で欠かすことのできない冊子が誕生。



石見銀山遺跡調査ノートの第1号



平成18年3月にまとめられた保存管理計画書

平成14(2002)年度

6月 ・ 街道調査開始

発掘調査・文献調査・石造物調査・科学調査に加えて街道の総合的な調査が開始。不明な点の多かった街道のルート確定に向けた調査が進められていきました。

8月 ・ 石見銀山講座（第1回）開催

4日間にわたって行われました。あわせて石見銀山公開講座「世界遺産とまちづくり」も開催され、東京大学西村幸夫氏が講演をしました。



公開講座で講演される西村氏



街道調査の様子



石見銀山講座 現地視察の様子

9月 ・ 衆議院文部科学委員会視察 ・ 拠点施設検討部会（第1回）開催

11月 ・ 石見銀山遺跡調査整備委員会（第1回）

これまでの発掘調査委員会を改組し、石見銀山遺跡調査整備委員会として新たに発足。委員長に前奈良国立文化財研究所所長の田中 琢氏が就任。



調査整備委員会の様子



衆議院文部科学委員会視察の様子



パネルディスカッションの様子



シンポジウムで熱心に話を聞く人々



石見銀山探索ツアー 銀山公園



本谷



大久保間歩

平成15(2003)年度

- 5月 ・石見銀山遺跡調査整備委員会（第2回）
- ・県市合同連絡会（第1回）
 県・市の情報共有を行い、各事業を円滑に進めていくことを目的に始まり、以後20回開催されました。
- ・石見銀山シンポジウム
 「石見銀山の原像を探る—世界遺産登録をめざして—」と題し、第一線の石見銀山研究者に熱く語ってもらいました。



町並み工房

- 7月 ・温泉津町に町並み工房開設
- ・ふるさと体験ツアー「海から見た石見銀山」
- 10月 ・河村文部科学大臣がH19年の世界文化遺産登録を目指す旨を表明
 登録年が具体化し、登録に向けた動きがさらに加速されました。
- ・熊谷家保存修理工事現場公開
 見学者が約500人訪れ、保存修理の具体的な現場を見学しました。



解体修理の様子

- 10月 ・発掘調査で「貴鉛」が発見される
国内で初めての発見で、石見銀山における灰吹法を明らかにする上での物証として注目されました。
- 11月 ・石見銀山遺跡調査整備委員会（第3回）
- 2月 ・「みんなで話そう石見銀山」開催
世界遺産登録の機運を盛り上げるためのシンポジウムとして開催され、奈良文化財研究所の村上隆氏をコメントーターに活発な議論が行われました。



貴鉛



みんなで話そう石見銀山



パネルディスカッション

3月 ・石見銀山遺跡国際シンポジウム

世界遺産の登録実務に携わっている専門家を招いての開催で、ユネスコ世界遺産センターのアレッサンドロ・バルサモ氏、イコモスアドバイザーのユッカ・ヨキレット氏等が参加しました。

・推薦書作成専門委員会（第1回）

推薦書の作成に向けた本格的な動きが開始。藤岡大拙氏、青柳正規氏、斉藤英俊氏、西村幸夫氏、村上隆氏、脇田晴子氏の6名の方が委員になりました。



国際シンポジウム現地視察の様子

平成16(2004)年度

- 4月 ・港湾集落調査の開始
- ・温泉津が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定
- 5月 ・石見銀山遺跡調査整備委員会（第4回）
- 6月 ・サイン計画ワークショップ（第1回）開催



サイン計画ワークショップの様子





景観保全審議会による現地視察

10月 ・ユネスコ松浦事務局長石見銀山遺跡視察

現地を視察する松浦事務局長



澄田知事、中村教育委員長ほかと



シンポジウム用に作成されたチラシ

- 7月 ・大田市・温泉津町・仁摩町景観保全条例施行
・大田市景観保全審議会（第1回）
- 8月 ・石見銀山遺跡支援プロジェクト事業調査会議
石見銀山講座（第3回）

あわせて公開講座「世界遺産と熊野古道」も行われました。



石見銀山講座の様子



記者の取材に応じる松浦事務局長

- 11月 ・石見銀山遺跡調査整備委員会（第5回）
・鉱業権問題の解決

京都市の鉱山会社が所有する鉱業権の取り扱いを巡る6年間の交渉が妥結し、県が鉱業権の消滅補償を行うことで合意。

- 1月 ・石見銀山周辺を鉱区禁止地域に指定（総務省公害等調整委員会）

石見銀山遺跡及び周辺において新たな鉱区の設定が禁止されました。

- 2月 ・シンポジウム「石見銀山遺跡…世界遺産として」
これまでの調査で明らかになったことについての説明・報告を主とした第1部、それをもとに石見銀山の将来像について語る第2部で構成され、約220人の参加者がありました。

- 3月 ・国史跡に追加指定
宮ノ前地区と石見銀山街道（鞆ヶ浦道、温泉津沖泊道）が正式に国史跡に追加指定されました。
・石見銀山遺跡地域づくりフォーラム

平成17(2005)年度

4月 ・石見銀山遺跡アクションプログラムプロジェクト会議 (第1回) 開催

石見銀山遺跡を確実に保存管理し、その価値を国内外に伝えていくとともに、地域づくりへの活用を図るための石見銀山遺跡アクションプログラム (後の行動計画) をとりまとめるため設置されました。

6月 ・鉱山遺跡専門家国際会議開催

「鉱山遺跡の顕著な普遍的価値と保存管理に関する専門家国際会議～石見銀山遺跡を事例として～」というテーマで開催。海外から国際記念物遺跡会議 (イコモス)、国際産業遺産保存委員会 (TICCIH) などの専門家代表をはじめ、スロバキア、メキシコ、中国、日本から専門家が参加しました。

・石見銀山協働会議発足

住民と行政が同じ目標に向かって協働し、これからの石見銀山のまちづくりを担う計画とそれを着実に実行する体制をつくることを目的として発足。東京大学大学院教授西村幸夫氏による基調講演も行われました。

7月 ・国史跡に追加指定

銀山柵内・沖泊・鞆ヶ浦・羅漢寺五百羅漢が国史跡に追加指定。



石見銀山協働会議の様子

9月 ・政府が正式に石見銀山遺跡を世界遺産に推薦することを決定

・推薦書暫定版が国からユネスコ世界遺産センターに提出

10月 ・大田市・温泉津町・仁摩町が合併し、新「大田市」が誕生

・大田市石見銀山景観保全条例を施行

11月 ・国の文化審議会文化財分科会委員が石見銀山遺跡を視察

12月 ・石見銀山遺跡関連緊急課題対応策検討会議 (第1回) アクセスルートの検討や交通実験の手法が検討されました。



記念撮影



会議の様子



田中委員長と
ヘンリー・クリア博士

・国の文化審議会文化財分科会において石見銀山遺跡を世界遺産に推薦することを了承

・大森銀山重要伝統的建造物群保存地区保存計画を改定

8月 ・同和鉱業 (株) が鉱業権を島根県に譲渡

仙ノ山一帯に同和鉱業が所有していた鉱業権が、島根県に無償で譲渡されました。

・石見銀山遺跡調査整備委員会 (第6回)

・島根県道路交通環境安全推進連絡会議 (石見銀山案内標識) ワーキング会議

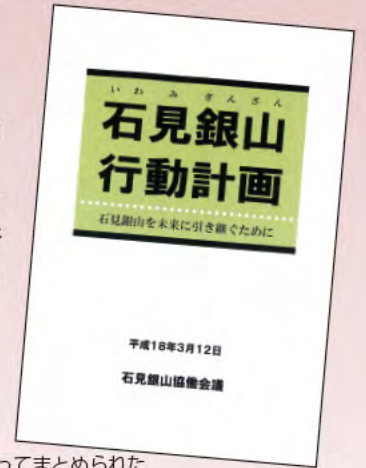


鉱山遺跡専門家国際会議の参加者による現地視察



ユネスコ世界遺産センターに提出された推薦書

- 1月 ・ユネスコ世界遺産センターが世界遺産登録推薦書を正式受理
 - ・デマンド型交通サービスと情報提供システム検討会（第1回）
- 2月 ・石見銀山展実行委員会（第1回）
 - ・石見銀山遺跡調査整備委員会（第7回）
- 3月 ・大田市議会全員協議会において拠点施設立地場所を「ふれあいの森公園」とすることを決定
 - ・大森町で交通実証実験
 - ・石見銀山行動計画策定



協働会議によってまとめられた石見銀山行動計画

平成18(2006)年度

5月 ・金銀銅サミット

金・銀・銅鉱山で栄えた佐渡・大田・別子の関係者が集まり今後の連携などについて話合いました。

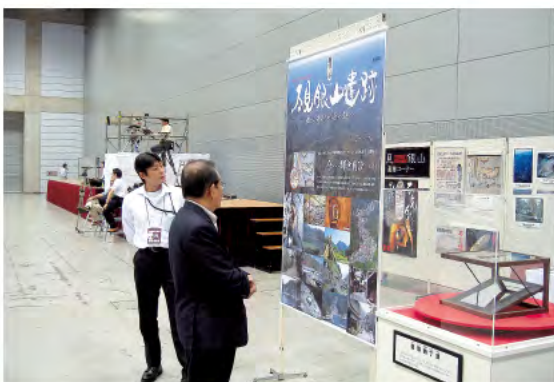
・石見銀山遺跡国際シンポジウム「鉱山遺跡の文化的景観」開催

鉱山遺跡の文化的景観について理解を深め、その保存や将来への継承をどのように進めていくべきかを考えるために開催。イギリスのジョン・ロジャー氏、ドイツのハンス・ゲオルク・デットメル氏などが基調講演を行いました。



パネリストのロジャー氏とデットメル氏

パネルディスカッション。多くの人が聴講しました



全国知事会議での石見銀山コーナー

- 7月 ・全国知事会議（松江）で石見銀山の情報発信
 - ・石見銀山交通対策検討委員会（第1回）
- 9月 ・「創作能 石見銀山」上演
 - ・石見銀山遺跡整備検討委員会（第1回）

10月 ・ **イコモス（国際記念物遺跡会議）調査員による石見銀山遺跡現地調査**

世界遺産登録を果たす上での最大の関門、イコモスによる現地調査が行われました。調査員として訪れたのはオーストラリア人のダンカン・マーシャル氏。現地調査では多くの質問が投げかけられました。



イコモス現地調査の様子



ミーティングの様子

12月 ・ **大田市石見銀山課・観光課・大田市観光協会の窓口を集中化**

世界遺産登録前後に想定される来訪者の増加・対応を見越して窓口業務を集中化しました。

1月 ・ **大久保間歩活用検討委員会**

2月 ・ **シンポジウム「ここまでわかった石見銀山」**

大田市あすてらすを会場に開催され、村上 隆氏が講演しました。(200名参加)

・ 龍源寺間歩整備竣工・供用開始

3月 ・ **石見銀山資料館リニューアルオープン**

平成19(2007)年度

4月 ・ **石見銀山方式パーク&ライド（交通規制）開始**

5月 ・ **イコモスがユネスコに対して「登録延期」勧告**

・ **世界遺産登録対応協議（第1回）**

この後、逐次今後の対応について国・県・市が協議を行い、補足情報の作成を進めました。



記者から取材を受ける近藤大使

- 5月 ・ **近藤誠一ユネスコ日本政府代表部特命全権大使が現地視察**
- ・ **溝口県知事が青木文化庁長官に登録にむけた取り組み強化を要請**

現地を視察する近藤大使





世界遺産委員会の様子
(ニュージーランド)

- 6月 ・文化庁の土屋文化財部長が石見銀山遺跡現地視察
- ・第31回ユネスコ世界遺産委員会において「登録」の決議（ニュージーランド：クライストチャーチ）
- 7月 ・世界遺産委員会において世界遺産一覧表に記載～資産名称「石見銀山遺跡とその文化的景観」
- ・登録記念提灯行列（大森町）
- ・世界遺産登録大田市民説明会



世界遺産委員会の会場



「登録」の一報を取材するために野村参事のまわりに集まった記者

- 7月 ・世界遺産登録記念「輝きふたたび 石見銀山展」開催（古代出雲歴史博物館・石見銀山資料館）
- 7月14日から9月24日までの期間中、両館合わせて10万人の来場者がありました。



石見銀山展のポスター



石見銀山展の会場の様子



県庁内に掲示された登録決定の看板



両会場を結ぶシャトルバスも運行

- 8月 ・石見銀山駐車場（第3駐車場）供用開始（ふれあいの森公園 250台）
- 10月 ・石見銀山世界遺産センター「ガイダンス棟」開所式、一般供用開始
- ・国の文化審議会において大森銀山重伝建地区追加選定答申
- 11月 ・登録記念式典（大田市あすてらす）



石見銀山世界遺産センター「ガイダンス棟」開所式の様子

石見銀山世界遺産センター「ガイダンス棟」外観



今まで作成した関連資料



(日本語・英語)

(日本語・英語・中国語・韓国語)



(日本語・英語・中国語・韓国語)



石見銀山調査歴

年度	西暦	調 査	調 査 概 要
昭和49年	1974	大森地区町並み保存対策事業	町並み約860（民家110軒）の戸別踏査、及び保存の良い典型的地区100m部分の建造物調査
58年	1983	発掘調査	代官所跡・蔵泉寺口番所跡
59年	1984	歴史資料調査	大田市、温泉津町、仁摩町、邑智町内に所在する古文書、鉱山用具、美術工芸品の調査
60年	1985	遺跡分布調査	大田市、温泉津町、仁摩町、邑智町、赤来町、大和村、羽須美村に所在する石見銀山関連遺跡の分布調査
63年	1988	発掘調査	龍源寺間歩
平成元年	1989	発掘調査	蔵泉寺口番所跡、大龍寺谷、旧河島家
2年	1990	発掘調査	蔵泉寺口番所跡、向陣屋跡、上市場
3年	1991	発掘調査	下河原下組
4年	1992	発掘調査	山吹城跡下屋敷
5年	1993	発掘調査	石銀千畳敷
6年	1994	発掘調査	石銀千畳敷
7年	1995	発掘調査	石銀千畳敷
		街道調査	石見銀山街道のうち温泉津沖泊道と尾道道の調査
8年	1996	総合調査	発掘：石銀藤田
			城跡：遺構分布調査と関連資料調査
9年	1997	温泉津の町並み保存対策調査	地区内における戦前の建物の全数を調査し、各階の平面図作成と写真撮影を実施
		総合調査	発掘：宮ノ前、出土谷、石銀藤田
			城跡：遺構分布調査と関連資料調査
			科学：出土資料（鉄鍋炉）の分析、遺構・遺物の保存処理
			石造物：石銀地区の墓石を中心とした石造物の分布調査
			間歩：銀山柵内（約72ha）の分布調査（位置・種類・地質等）
			文献：石見銀山・日本国内・海外関係の文献調査
民俗：生活、信仰、地名等の調査			
10年	1998	総合調査	発掘：石銀藤田、栃畑谷、於紅ヶ谷、竹田
			城跡：遺構分布調査と関連資料調査
			科学：出土資料（土・カラミ）の分析、遺構・遺物の保存処理
			石造物：石銀地区、龍源寺間歩上、妙本寺跡墓地
			間歩：銀山柵内（約84ha）の分布調査（位置・種類・地質等）
			文献：石見銀山・日本国内・海外関係の文献調査
			民俗：生活、信仰、地名等の調査
港湾：民俗、街道、石造物、棟札等の調査			
11年	1999	総合調査	発掘：宮ノ前、出土谷、於紅ヶ谷、竹田
			科学：出土資料（土・カラミ）の分析、遺構・遺物の保存処理、科学調査研究会の開催
			石造物：石銀地区、龍源寺間歩上、妙本寺跡墓地
			間歩：銀山柵内以外の分布調査（位置・種類・地質等）
12年	2000	総合調査	文献：石見銀山・日本国内・海外関係の文献調査
			発掘：宮ノ前、出土谷、於紅ヶ谷、竹田、柑子谷地区遺跡詳細分布調査

			科 学：出土資料（土・カラミ）の分析、遺構・遺物の保存処理、科学調査研究会の開催 石造物：龍昌寺跡、銀山柵内分布調査、羅漢寺五百羅漢中央窟 間 歩：大久保間歩など7坑道の坑内調査 文 献：石見銀山・日本国内・海外関係の文献調査
13年	2001	総合調査	発 掘：宮ノ前、出土谷、於紅ヶ谷、竹田、本谷 科 学：出土資料（土・カラミ）の分析、遺構・遺物の保存処理、科学調査研究会の開催、三次元測量 石造物：大龍寺、安養寺、大安寺、妙蓮寺、勝源寺、熊谷家墓地、豊栄神社、五百羅漢 間 歩：銀山柵内（約60ha）の分布調査（位置・種類・地質等） 文 献：石見銀山関連文書調査（熊谷家・堀家・上野家）
14年	2002	総合調査	発 掘：宮ノ前、出土谷、於紅ヶ谷、竹田、本谷、熊谷家、阿部家 科 学：出土資料（土・カラミ・ユリカス）の分析、遺構・遺物の保存処理、三次元測量 石造物：長楽寺、西性寺裏墓地、銀山柵内分布調査 街 道：鞆ヶ浦道、温泉津沖泊道 間 歩：金生坑、甘南備山坑の坑内調査 文 献：石見銀山関連文書調査（熊谷家・阿部家・上野家）、海外文献調査
15年	2003	総合調査	発 掘：宮ノ前、出土谷、本谷、下河原 城 跡：遺構分布調査と関連資料調査 科 学：出土資料（貴鉛・土・カラミ）の分析、遺構・遺物の保存処理 石造物：羅漢寺五百羅漢、温泉津沖泊地区、大森地区 街 道：鞆ヶ浦道、温泉津沖泊道 文 献：石見銀山関連文書調査（熊谷家・川上家・小割家等）
16年	2004	総合調査	発 掘：宮ノ前、本谷、港湾集落 科 学：出土資料（無文銭・カラミ等）の分析、灰吹法の検証、遺構・遺物の保存処理 石造物：分布調査のまとめ 文 献：石見銀山関連文書調査（熊谷家・中原家） 港 湾：民俗、文献、石造物、自然等の調査
17年	2005	総合調査	発 掘：本谷、熊谷家、岡家、安養寺 科 学：出土資料（小金属塊・炉壁）の分析、科学調査研究会の開催、遺構・遺物の保存処理 石造物：恵瑠寺 文 献：石見銀山関連文書調査（熊谷家・高野寺）
18年	2006	総合調査	発 掘：本谷、大森地区 科 学：科学調査報告書の作成 石造物：西念寺、温泉津地区分布調査、安原備中関係 文 献：石見銀山関連文書調査（熊谷家・旧順勝寺）、佐渡史料、吉備津神社御釜殿棟札 間 歩：間歩現況調査 生 物：植生図の作成



UNITED NATIONS EDUCATIONAL,
SCIENTIFIC AND
CULTURAL ORGANIZATION

CONVENTION CONCERNING
THE PROTECTION OF THE WORLD
CULTURAL AND NATURAL
HERITAGE

*The World Heritage Committee
has inscribed*

Iwami Ginzan Silver Mine

on the World Heritage List

*Inscription on this List confirms the exceptional
and universal value of a cultural or
natural site which requires protection for the benefit
of all humanity*

DATE OF INSCRIPTION

2 July 2007


DIRECTOR-GENERAL
OF UNESCO

世界遺産

石見銀山遺跡とその文化的景観
公式記録誌

発行 島根県教育委員会
(島根県教育庁文化財課世界遺産登録推進室)
島根県松江市殿町1番地
TEL 0852-22-6387

発行日 2007年11月9日

編集 島根県教育委員会 今井印刷株式会社

製作 今井印刷株式会社

